

ひとつのメッセージを通して

松永敦神父

「お誕生日おめでとうございます。神様の愛と人々への思いやりの中で、大きく、大きく、育って行って下さいね。」

昨年の誕生日に、絵文字入りでこのメッセージを送って下さったのはある修道会の神父様です。神父様とはお会いしたことがなく、どこでどうして繋がったのかも覚えていないFacebookだけの繋がりで。たくさんの中のひとつだったこのメッセージがぬくもりを帯びはじめたのは、誕生日から2週間後、神父様が帰天されてからのことでした。訃報を知ったのは、友人を通してです。その日、神父様のFacebookのタイムラインを覗くと、感謝と別れを惜しむ言葉がたくさん並んでいました。

会ったこともないのに、他愛もない言葉なのに、忘れ物のように神父様は私の心に何かを残していきました。それが何なのか、箱と包みを開き、中身を味わってみて、分かったのは、人との向き合い方でした。きっとこれまでの修道生活の中で、ご自分が苦しみのうちにあっても、あたたかい心で他者を祝福できる生き方を培ってこられたのでしょう。その生き方に十字架上で犯罪人に樂園を約束されたイエスの姿が重なります。

4月に叙階の恵みを受け、司祭として歩み始めた私に模範を示して下さいのように思います。学校でも教鞭を取られ、要職に就いておられた時には、他の先生方に「今の本校の生徒は10年前の生徒ではないし、他校の生徒でもないので、比べないで欲しい。今ここにいる生徒達をしっかりと見つめて欲しい」ⁱとひとりひとりを大切にするように話しておられたようです。あとで調べてわかったことですが、神父様が叙階された年は私の生まれた年と同じでした。神父様からキリストに倣う生き方のバトンを渡され、神様の愛と人々への思いやりを忘れないように、日々心がけて、姫路中ブロックの中で、司祭としてのつとめを果たしてまいりたいと思います。今年も誕生日を迎え、神父様のことを思い出したので、ここに書き記させて頂きました。その神父様とはサレジオ会の河合恒男神父様です。河合神父様、ありがとうございました。

ⁱ 「校長インタビュー」〈<http://www.core-net.net/report/01/01/07.html>〉(2015/07/06 閲覧)